

## 議 事 概 要 書

会議名称	令和5年度 第3回社会教育委員会議（臨時会）及び教育委員との懇談
日 時	令和5年11月22日（水）視察：午後13時30分～午後3時10分 会議：午後 3時30分～午後5時00分
場 所	会議：伊那市役所 502会議室 / 視察：東春近
出席者	伊那市社会教育委員：8名（欠席：2名） 教育委員：4名 事務局：教育長、教育次長、生涯学習課長、学校教育課長、市誌編さん室長、子ども相談室長、生涯学習係長、社会教育指導員、文化財係長、文化施設係長、伊那公民館長、青少年係長、図書館係長、美術館副館長、高遠教育振興係長、学校教育課補佐、担当、（欠席：1名）
議 題	下記のとおり
議 事 内 容	
<p>1 開会（教育次長）</p> <p>2 あいさつ</p> <p>教育長：昨年も申したことだが、教育委員の皆さんも、社会教育委員の皆さんも、大変良く活動してくださっている。この後も、イベント等の参加報告を出し合って、成果や課題を共有する場がある。また、昨年の夏から市報に、社会教育委員さんのイベント参加報告を基にしたコラム、「社会教育委員が行く」が掲載され、大変好評であると聞いている。私も毎月楽しみに読んでいます。本日はそのことについても紹介いただき、あり方について意見を交わしていただく良い機会になればと思う。</p> <p>あと2つ述べさせていただくが、伊那市の第2次の総合計画の柱、「人を育むまちづくり」では、生涯学習が担うところが大変大きいと思う。第5章は「歴史と文化を未来へつなぐ心豊かな人を育むまちづくり」だが、私は子供たちに繋ぎ手として、伊那市を担い伊那市に生きていくことを願う、そのような伊那市としての子どもたちへの願いが込められていると思い読んでいます。地域の文化的、教育的な取組みがさらに機能していくために、社教育委員の皆さんの取組みが大事であると思う。</p> <p>2つ目だが、3年に及んだ感染症対応だが、学校や公民館、文化施設や学童クラブなどには大変大きな影響を受け、制約を受けながら感染症対策を講じ、出来る取組みを大事にしていこうと工夫し努力を重ねてきてくれた。そうした取組みをとおし、休止していた取組みを復活するにも、検討していくことが大事であると感じる。本質化と日常化も、本日の視点の一つになると思う。この懇談を有意義な機会にしていきたいと思うところである。</p> <p>会長：今年は大変猛暑となり、暑い中で過ごしてきたが、季節も11月下旬となり中央アルプスの頂には白銀が覆い、季節は初冬へと移ってきた。本日は教育委員の皆さまにも出席いただくなかでの第3回社会教委員会議である。</p>	

5類に移行された新型コロナウイルス感染症も落ち着いている状況であり、現在はインフルエンザが蔓延している状況である。感染症にはご留意いただく中で、それぞれのお立場でご活躍いただきたいと思うところである。

本日は、「社会教育委員の活動から」との内容で懇談が行われる。委員の皆さまがそれぞれのイベントや地域の活動に参加しての感想を、イベント参加報告として事務局に提出させていただき、委員同士でも共有を図ると共に、担当部署でもその意見を事業活動の中で活かしていただいている。本日のこの時間では、それぞれのお立場からご意見をいただき次に繋がる有意義な会議になるようご祈念申し上げます。

### 3 令和5年度社会教育委員の実践活動について（進行：会長）

○イベント等参加報告、地域の話題（各委員から報告）

- ・森の音楽会
- ・令和5年度 長谷地区生涯学習講演会
- ・伊那中央病院 地域医療連携講演会
- ・伊那市人権同和教育講座講演会

### 4 懇談（進行：会長）

「社会教育委員の活動から」

《文化施設だより「社会教育委員が行く」及び各種イベントについて》

#### ① 文化施設だより「社会教育委員が行く」について

（生涯学習係長からテーマの趣旨説明）

<懇談>

委員：文化施設だよりの初回の説明のところに書いてあるが、「社会教育委員は、社会教育行政について、住んでいるまちの実情を知り、地域と行政との間をつなぎ、地域の声を行政に反映させる役割を担っていただいている」とある。また、「市が行うさまざまな事業に足を運び、情報を共有し、意見を述べ、提言をしていただいている」とある。特に後半の様々な事業、イベントや体験についてお伝えいただいているのが、文化施設だよりであり、報告書だと思うが、それらは自分が全部のイベントへ参加できるわけではないので、毎回、有意義に読ませていただいている。「住んでいるまちの実状を知り、地域と行政との間をつなぎ、地域の声を行政に反映させる役割を担っていただく」の部分で、お聞きしたいが、生涯学習では学校教育以外のものは社会教育だと整理されていると思うが、今朝の新聞にもあったが、学校の先生のみならず手がいないと載っていた。たまたま高遠小学校の150周年の記念事業に行ったときに校長先生から話をいろいろ聞く機会があった。クラスで先生たちは忙しいが、支援する人が不足しており、もっと地域からサポートしていただきたいという要望は学校側から常にあるとのこと。必ずしも教員免許を持っていなくてもいいからと。公民館長もいたので聞いてみた。公民館では学校のクラスで授業を支えるようなスキルを身につける講座をやらないのか聞いたところ、出来るかもしれないが、参加者の中には、支援する人もいないかもしれないが、毎週この時間に学校へ行く

ということが大変であると言われたとのこと。仕事として使うスキルを身につけるようなことを、社会教育に期待していないというか、そういうことを学ぼうという人が市民の中にあまりいないと、お答えいただき、それが実情かも知れないと思ったが、社会教育委員の活動にあるように、住んでいる町の実状を知りといところで、その中で特に学校現場の人手不足は実状であり、それを社会教育や公民活動や生涯学習の中で解決することは出来ないだろうか。多くの人は、行きたい時に行きたいイベントに参加したいという人が多いだろうが、なかには、そういうことなら、週3日だけでも学校のお手伝いに行こうという人がいないだろうか。ただ行って役に立たなくてもいけないので、ある程度一定のトレーニングを、公民館や社会教育の中で学んだり出来ないだろうかと個人的に思った。国にすると、よくリスキリングと言って、新しく生まれてくる仕事に適応し、スキルを身につけるような。そこまで大袈裟に言わなくても、そのようなことを、社会教育で解決できないかと漠然と思っている。そのような方が、皆さんの周辺にいないとか、社会教育の中でそのようなことが解決できそうかなど、ご意見を伺いたい。

委員：今の話に関して、少し抽象的な話になるが、現状の教育の仕組みが時代に合っていないのが、国もようやく分かってきている。方向を変えようとしているが、だいたい方向は見えてきている、今の多様性の時代の中で、絶対的に教師の数が足りない。多様化に対応する教育のシステムに今までがなっていなかった。それを時代の要請に合わせるようにするためには、教師の数を増やさなくてはいけない。しかし人口も減ってきている。その辺の調整の仕方。それと間に合わないのが、その仕組みが出来るまでの間をどのようにするか国も考えている。その中で従前よりも増して必要となってきたのが、今の社会教育という部分で非常に重要視され、10年から15年と言われている。そのために新しく社会教育士という者を国は用意をして、そちらの人材を育成し、それをなんとか活用できないだろうかと作ってきていて、県でも社会教育士を来年から突貫工事で夏休み20日間講習を受ければ、資格が取れるということで動きだしている。さしあたりは、そちらの方面で学校教育のカバーを図っていくということで動いている。ですので、私たち社会教育委員の立場としては、今まで以上に学校にもっと出入りをして、学校教育のサポートに入っていくとダメな状況であると認識している。

委員：今の質問で、学校が多忙だということで、私も小学校の学習支援で水曜日の、今年はず一回だが、5時間目に2年生と1年生のクラスに入って、支援させていただいているが、ほとんどは先生が問題をペーパーで出して配ったものを、私たちが採点をしている。なかなか持ってこられないような子には、こちらから席に行き、「どこか分からないところがあるの」とか聞いている。そして先生がアドバイスをして、必ず100点になるようにしてあげるような支援をしている。市報と一緒に学校が郵便りを出し、ボランティア募集のチラシを年度の始めに配り、支援をしている。しかし、誰でもいいという訳ではないということを、学校側も言っており、守秘義務も求められるところでもある。地域の児童の皆さんなので、そこで知り得た情報等を口外してはならない、ということは求められると言われた。なかなか、守秘義務に関しては難しい面もあるが、そうした中でも、手伝い出来ることは、私自身楽しみであり、児童の皆さんの成長を見届けられるところも良

いところだと思い活動している。そのような活動も、地道ではあるが地域によっては行っている所もあるので、学校も手を差し伸べて欲しいところがあれば、学校だよりで流してほしいと、学校にお願いしている。そうしたことで、地域の皆さんが学校へ足を運び、敷居の高い学校が低くなり、地域と交流できるのではないかと感じている。

委員：私も小中学生の、学習支援をしているが、見ていると、進んでいる子とそうでない子のばらつきは大きい。そうした中で、一人の先生が大勢の子どもたちを見るのは本当にたいへんだと思う。最近AIが話題になっているが、AIをもっと学校の教育に使えないか。いろいろな子どもたちがいる中で、いろいろな子どもたちに合わせた教育が、AIで出来るのではないかと思うところもある。そういうところに目を向けて開発して、取り込んでいただきたいと思う。

もう一点、私が社会教育委員の話を受けたときに、社会教育委員とは何をするのか分からなかった。そうした中で、市報のコラムを見ると、こういうことも行うのだなと見えてきて非常に参考になった。しかし、最初は分からなかったもので、何をするかと図書館に行って本を探したりもした。その中には、趣味を楽しむとか資格をとるとか、そのような社会教育もあるが、それ以外に社会的課題として、少子高齢化や男女共同参画などの解決にも持っていくべきではないかということが出ていた。そういう点では、今までの活動は少し弱かったのかなと思う。それでもその一端が出来た部分としては、長谷の中尾歌舞伎かなと思う。皆さんと一緒に取り組めたことは良かったと思う。

委員：文化施設だよりの「社会教育委員が行く」のコラムは大変素敵だと思う。実際、社会教育委員の皆さんの視点で見たそれぞれのイベントや行事の中身を、簡潔に書いていただいてあり、行けなかった人からしてみると、そういう内容だったのだなということが分かるが、では、このイベントが来年もあるので、ぜひ行きましょうという流れではなく、常に終わったものの評価でしかないのはもったいない。事業のフィードバックとして社会教育委員の皆さんが言ったことを、イベントの主催側がどのように取り入れて、来年はこういうふうに行う。実際、イベント自体も告知されるタイミングの時に、おすすめとしてコメントを書いていただく。昨年、こういうことで良かったので、ぜひ、来てください。といった形で、バトンを投げてくださいと、これから参加を考えている人の分岐になるコメントに変わっていくこともあるのではないかと。常に、結果の後追いという発信の仕方はどうなのかと思う。

先ほどの、社会教育委員さんの発言は、大変な課題で、イベントの数はたくさんあり、それを評価するのが社会教育委員の皆さんの仕事の一つであると思うが、これから求められている社会課題という話になると、イベントの評価というよりは、どのような社会教育のプログラムがこれから必要になるのかということ、これから議論していただきたい。たとえば、数学嫌いの私が、数学を好きになるという授業を行い、自分の孫が小学校入学になるので、全6回講座で小学校低学年の数学が好きになるポイントの授業をおじいさんが受けに行き、学校の先生のカリキュラムと同じように勉強し、風呂に入りながらや、掃除をしながら、子どもに算数どうだと話をしたり、おじいさんが勉強している算数講座はこうだぞという話が出来たりなど、学校に支援に入るには誰でも良いわけで

はないが、もっと広く生涯活動として、小学校や中学校の時は数学嫌いだったが、もう一度違う視点で教えてくれる講座があれば、そこで数学というものを60歳だが勉強したいとか、もっと言うと、現役世代の私たちも、仕事だけではなく社会教育という講座を一つ受講しながら日常生活をしていく位の、自分のスキルを上げるため、楽しみとかではなく、自分自身の能力を引き上げるための大人の勉強で、実学的に役立つ、知っててよかったというものではなく、それを契機に自分が深まっていくような、本当の意味での大人が学ぶといいものを継続的に行いながら自分を上げていくような講座のようなものが開設出来ていくと、お客さんが楽しかった、分かりましたとなっても、3日経つとフラットになってしまうものも当然必要だと思うが、積み上がっていくような講座的なものもあるとよいのではないか。社会には多くの資格試験とかあるが、そのような堅苦しいものではなく、無償や低額で市民が利用できる自分の人生の方向性がそれを受講することによって変わるきっかけになるような講座みたいなものを提案して貰おうと本当の意味での社会教育になるのかと思う。現在は、イベントで楽しい、見て良かった、終わり。といった印象が強い。これを見たからどう行動するか、これを見たことによって何が積み上げられていくか、むしろこう積みあがりますよというものが見えている全6回の講座が社会教育のひとつのプログラムとして提供できるようになると、これは意味合いが大きく変わる。そこで学んだ人が広い意味で子ども達の教育に関われるとすごく良いのではないだろうか。

委員：まず、文化施設だよりの冒頭の「社会教育委員が行く」について、以前、この会で話し合ったときに市報等に載せたらどうかという意見から実現したもので、早速実現したこと、さらに、各月、それぞれの行事に参加されたことが端的に書かれており良いと思う。

先ほどの話の中にあっただが、「歴史と文化を大切にし、人を育むまちづくり」、これが大きなタイトルだが、学校教育の観点から、子どもたちにどう伝わっていくかを考えたときに、すべては理解しがたいかもしれないが、例えば学校では、よく新聞で本校の記事が出たとやるが、併せながら、例えば毎月出ているところで、自分の学校に関係するものを、さらにクローズアップするなどすることによって、自分の地域や歴史、文化や人を見返すきっかけに出来る。短いだけ子どもも読みやすいし、そんな活用が出来たらどうかと思う。

いいところ10選や、社会教育委員の皆さんが行かれたところを見ると、本当に宝庫である。これは、子どもたちにぜひ感じとっていただき、それをまた、大事にしていくといく気持ちをもっていただきたいと強く思う。そのように結び付けられたら良いと思う。

委員：イベントの参加というのは、地域ごとで大事にしていることとか、それを皆さんに伝えたいというところで、生まれているものが多いと思う。それをこんな感じで行き、このように感じたということ、客観的な立場で見ていただき、そしてレポートを上げていただいているので、それは大事なことではないかと思う。実際、今月の催しがあっても、なかなか端から行くことは出来ない。どのような感じであったか気にかけている人もいると思うので、このようなことは大切な活動であると思う。ただ、毎年、同じものを行っているように思われると、どうかと思う。その時のトピックであったり、時代に即したも

のが増えつつ、例えば、令和になってイベントとして省かれるものがあるのか。前の年に  
行ったものは必ずあって、そこに増えていく感覚なのか。

事務局：イベント事業そのものは、生涯学習課が所管している事業であれば、見直しをしながら  
行っている。生涯学習課所管でないイベントについては、担当課へ意見を共有し、それ  
をふまえた上で検討し、同じようなイベントになることあるが、意見を反映し行ってい  
る。

委員：そうすると、イベントの参加は、この委員さん願います的な、当番的なことではな  
い、行きたい、これはいいなと思うところへ行っているということか。

事務局：そのとおりである。また、掲載に関しては、当番制ではなく、同じ委員が被らないよう  
に提出された報告書の中から何を載せるか考えている。そのほか、近い期日で、所管施設  
でイベントがある場合は、その施設のイベントを掲載するなど、繋がりを持たせ掲載し  
ている。

委員：皆さん、知識も豊富であったり、趣向が特化したりしていて、私に任せて的なものもあ  
ったりということがあると思うが、これには、私は行きたいというかたちで行っている  
感じなのか。

事務局：イベントの参加については、こちらで委員ごとに、これとこれに行ってください、とい  
うことは一切なく、強制ではなく、全く自主的に、興味を持ったものに委員の思いで参加  
していただいている。

委員：義務的ではなく、参加しているということなので、生きた文章が載せられるのかと、改  
めて感じたところである。そうはいっても、それを感想に書くことは大変な作業である  
と思う。私たち教育委員も美術館等に呼んでいただくこともあるが、なかなか行けない  
という部分も多く、そこをフォローしていただいていると思う。

#### 《我がまちのいいところ10選について》

(生涯学習係長からテーマの趣旨説明)

#### <懇談>

委員：コロナも明け、地区の子どもたちや大人の皆さまで、公民館で何か活動をという声が出  
てきている。公民館活動もコロナ停滞していて、区の遠足や何か見学に行くというこ  
と自体が、ここ3年やっていない状態の中で、新しく企画するとき、どれくらいの人数  
規模で、バス何台でなど、もしくは、あそこへは遠足で行くとどれくらいの時間がかかる  
のか、また、行った先でお弁当を食べられるのか、どのような景色が待っているかとい  
うようなことがある。公民館の分館長はこの地域も2年サイクルぐらいかと思うが、か  
つての歴史を振り返ると、あそこへ行ったというのが分かるが、新しい視点でものを見  
ようと思うときに、いいところ10選というのが、どれくらいの所要時間で、どれくらいの  
広さで、どんなことが出来て、どういう視点で見ると面白いとか、こういう視点でここを  
使ってみてくださいなど、地元の社会教育委員の皆さんが、見に行ってくれて、社会教育  
の現場としてこんな使い方があったら素敵ですねというコメントも含めて、上がってい  
るページがあったら、新任の分館長とか、副主事さんとかが検索できるようなサイトが

あるとよい。もしくはそこに、常にコメントとかがアップされているようなもので、家庭等で時間が空いたのでどこか行くという時に、検索すると、この景色は写真に収めてくださいなどがあると、この活動自体が情報ツールになるのではないかと感じた。簡単にアクセス出来て、情報が取れるようなページ設定で、社会教育委員の皆さんが書き込めるといった形で、日々更新されているようだと素敵だと感じた。

事務局：ご意見を参考にさせていただき、そういったことを考えて、出来る部分で進めていけたらと思う。

委員：自分自身の思いとして、いいところ10選を行って来て、他の委員さんの報告を見たり、自分でもこういう場所を探さなくてはいけない。そこで、私が一番変わったことは、意識的にいろいろな物事を見るようになった。例えば、ケーブルテレビ、新聞、市報やそこに入ってくるチラシ等をこれまでは何となく見ていた。個人的な範囲かも知れないが、意識的にいろいろ見て、伊那市のよいところを発掘していこうと思うようになった。今度は、それを広めていかななくてはいけないということもあるが、自分のものの見方や感性は大きく変わったと思う。

委員：いいところ10選は、見させていただき本当に素晴らしいと感じる。ただ現状を視察するだけでいいのだろうか。将来に向けてどうすればいいのかということをもっと考えた方がよいのではないかと考える。高遠城址で言うと、先日、九州の方を観光案内したが、長野県の他の100名城などに比べると、見劣りするなど感じる。もちろん建物が無いということもあるが、そういった中でも、100名城として土塁や堀が選ばれている。そういうところを、もう少し現状に復帰するような形にしてほしい。全部を復帰させる必要はないが、そこへちょっと下りていけるようになれば、ここを攻めるのは本当に大変であると思っただけ。その当時は、この上に塀でもあったのだろうなど感じていただければ、戦国時代のお城のあり方についても、もっと理解していただき、もっと興味を深めていただけるのではないかと感じる。高遠城跡だけではなく、他のところも多くあるのではないだろうかと思う。そういう意味での見直しをしながら私たちも視察をしていきたい。

委員：先ほど、社会教育委員さんより、発掘していくという話があったが、これはまだどんどん広がっていくと考えてよいか。そういった観点で見たときに、例えばセットにしてもよいと思う。高遠の真ん中に歴史博物館があるが、すぐ近くに美術館があり、優れたものが多くありイベントも行っている。他には、建福寺や、遠照寺、弘妙寺、蓮華寺、香福寺等のお寺のセットなど、ここを見るところで発展するようなこともあるかもしれない。他にも、長谷の溝口露頭があるが、板山露頭というのも非常に明確に露出している。関連させて、自分の地区であったり、違う地区であったり、または寺社であったりと広がっていく。必ずしも広げればよいとは言えないが、そういう中の素晴らしさというものは、かなり深まっていくのではないかと。

もう一つは、これも先ほど社会教育委員さんが言ったことに関わるが、先日、高遠小学校の150周年に行ったときに、講演にこられた笹本先生が、南曲輪三の丸の庭園を復活できないかと言われた。南曲輪の絵図があると思うが、課題はあると思うが、出来ないだ

ろうかと思う。復活させることで大きな魅力になる。いろいろな係わりの中で、出来ることと出来ないことはあると思うが、そのようなことについても、研究をしてみたり検討されるとよいと思う。

#### 《生涯学習課の各施設について》

(生涯学習係長からテーマの趣旨説明)

#### <懇談>

委員：公民館や図書館について、現在どのような利用が出来るのか。市の図書館で、パソコンを持って行って、作業をすることは出来るのか。

事務局：はい、利用できます。

委員：カタカタという音ぐらいであれば、音楽を流したり、音を出さなければ作業することは大丈夫ということだと思うが、その際に、ワイファイだとか、コンセントのようなものはどれくらいあるのか。

事務局：ワイファイについては、場所により電波の強弱はある。コンセントに関しては、充電目的に使われることもあるため、利用は制限させていただいている。パソコンはあらかじめ充電をした状態で使っている。

委員：コンセントを使えるだけでも、オフィスを持たない働き方が多くなってきているが、そういう仕事をしたい人達が、充電なんかは自由にやってくださいといった環境が整えば座る方は増える。利用者を増やすということからしても、趣旨に合わないのでしょうか。そういう人たちに来て欲しいのではなくて、本を借りに来て欲しい、そういう風に考えるかどうかといった議論になる。広く言えば、市民の学習や情報収集、情報を調べて自分で作る。本は借りないが、文章を作るなど、そういう人たちが来てもいいようにして、またサポートをするようにすれば、人が増えると思う。現在、それをしてないということは、そのような使い方はご遠慮いただきたいということで、そのような結果になっていると思う。ニーズはすごくあると思う。いくら充電と言っても、それほど生涯学習課の予算を超えてしまうということはないと思うので、それぐらいは上手にやれないだろうか。私だったら、そのようになれば図書館へ行きたいし、ついでにいろいろな閲覧をしたいと思う。もっと言えば、過去の情報やオンラインの情報も、いいものは有料で、新聞の過去の記事などはデータベースになると思う。いろいろな調査などに、図書館しかできないものもあるので、そういうところを充実させていとか、本だけでなく、そちらの方面も充実させていく、という一つのアイデアとして検討いただけたらと思う。

#### 5 その他

- ・今後の会議等予定について

上伊那地区社会教育委員研修会 令和6年1月19日(金)

第4回社会教育委員会議 令和6年3月中旬

#### 6 閉会(副会長)